

日税メールステーション 特別号 海外基本情報

第27回 マレーシア編(3)

メールマガジンをお読みの皆様こんにちは、株式会社コアブリッジの柳です。
マレーシア編最後の今号では現地の様子をお届けします。

■街の様子

首都クアラルンプール(KL)は、東京やシンガポールとさほど変わらない街並みです。イスラム教国のため、スカーフ(ヒジャブ)を被った女性を多く目にします。
ホテルの天井にはイスラム教の聖地“メッカ”の方角を指す矢印のシールが貼られています。ムスリム(イスラム教徒)はこの矢印が指す方向を向いて一日5回お祈りをするのですね。



左:ホテルの天井に貼られている、メッカの方角を示す矢印のシール。



右:中華街。物の販売や料理店などが並び、非常に活気があります。

■インフラ状況

電気、通信、水道、どれもしっかりと整備され、なんの心配もありません。
水道水は飲食用には適していないので、ミネラルウォーターを飲みます。
マレーシアはシンガポールに水を輸出していて、シンガポールでは水道水が飲めるくらいなのにマレーシアではなぜ飲めないのか、と不思議に思えるのですが、浄水直後は日本と大差ないほどの綺麗さであっても、水道管や貯水槽が汚れているためです。

■交通事情

首都クアラルンプール(KL)では、電車、バス、タクシーが整備され、近距離長距離ともに移動手段が豊富です。

KLを中心に敷設されているLRT/KLモノレール/KTM通勤の3鉄道はKL内の移動に便利ですが、路線図上の乗り換え駅でも距離が非常に離れていたり、自動券売機によっては小額紙幣(5RM以下)のみ受付可能なことがある(券売所窓口はスタッフ留守のことが多い)点は注意が必要です。

長距離移動にはバスがよく使われ、空港と思えるほど巨大なバスターミナルに発着します。



長距離バスが発着する TBS バスターミナル。空港のように巨大です。バスの座席は豪華仕様で、長距離移動でも快適です。

タクシーには一般タクシーと高級タクシーがあります。後者は青い車体です(赤青二色の車体は一般タクシー)。高級タクシーは料金が一般タクシーの倍くらい(一般タクシーの初乗りが3RM(約80円)、200mまたは36秒ごとに0.25RM(約7円):金額はマレーシア陸上公共交通委員会のWebサイト<<http://www.spad.gov.my/land-public-transport/taxis/rationale/new-taxi-rates-fares>>から引用)ですが、元々料金が安いうえ、メーターを使ってくれるので、不慣れな場合でも比較的安心です。ただ、マレーシアのタクシーは、ぼったくりや目的地と違う場所で降ろされるなど、マナーの悪いドライバーが結構いるので、おかしいと思ったらすぐに降りて別のタクシーを探すのがよいです。

■通信事情

2015年時点での電話契約数は、固定電話が約440万(14.3%)、携帯電話が4,410万(143.9%)と、携帯電話の契約率はお隣シンガポールとほぼ同じです(数値はITUの統計データ<<http://www.itu.int/en/ITU-D/Statistics/Pages/stat/default.aspx>>から引用)。スマートフォンがかなり普及し、通信会社も複数から選択でき、通信品質も高いです。多くの公共

施設や商業施設では無線 LAN が無料で使えるため、通信は容易です。

■マレーシアの食事

最後はいつもの通り食事で締めましょう。

マレーシアの食事には、構成民族にあわせて、大きくマレー/中華/インドの各料理があります。この食事情はシンガポールとほぼ同じです。

マレー料理の代表格として、ココナツミルクで炊いたご飯に鶏肉などのおかずをのせて食べる“ナシ・レマツ”、豚肉をスープで煮込んだバクテー(肉骨茶)、麺料理の“ラクサ”などがあります。どれも日本人の口に合います。ナシ・レマツのご飯はしつこくなく、ほんのり甘みがあります。バクテーはシンガポールでもよく食べられますが、味やスープの色が異なります。シンガポールのものはスープが白色で胡椒が効いているのに対し、マレーシアのものは黒色スープでコクがあり、ニンニクや鷹の爪を入れて調合したタレをつけて食べるとかなりイケます。ラクサは地域によって食材や味付けが異なり、日本のラーメンのように食べ比べができます。



左上:豚肉を煮込んだ肉骨茶(バクテー)

左下:ココナツミルクで米を炊いたナシ・レマツ

右上:インド料理のビリヤニ。スパイスの効いた米料理

右下:ニョニャ料理のカレー・ラクサ

治安、物価、環境面などで日本人にも人気のある親日国マレーシア。最近では、マレーシア-シンガポール間を結ぶ高速鉄道の受注を日本がなんとか獲得しようとしているなどの報道を度々見聞きします。LCC(AirAsia)の普及により行き来もしやすくなり、より身近になってきています。

今回は以上で終了です。次回からはブルネイ編に移ります。
ではまた次号でお会いしましょう。

※本文中の数値や URL 等は執筆当時のものです

執筆者

柳 恵太 (やなぎ けいた)

株式会社コアブリッジ代表取締役。

ソフトウェア開発会社、メーカー、教育ベンダーを経て、2014年に株式会社コアブリッジを設立。これまでの、システム開発の上流から下流、受託側から発注側、エンジニアからプロジェクトマネージャー、ユーザーと開発者、企画・営業・開発・提供、日本と海外、社員から経営者といった、組織における幅広い役割を活かし、主に IT 企業向けの人材育成やコンサルティング等のサービスを提供している。

情報提供元:



株式会社コアブリッジ

<http://www.corebridge.co.jp/>

※本コラムは、<http://www.corebridge.co.jp/column.html> でもご覧になれます。